



2025年12月期 決算説明資料

ユニソルホールディングス株式会社

2026年2月13日

「その手があったか」を、次々と。

UNISOL



1

2025年12月期 決算の概要



● **2025年12月期 通期実績**

- 2024年12月期との比較：減収減益
 - 増収増益：機械・工具、IoTソリューション
 - 減収減益：建設資材、建設機械
- 2025年12月期予想達成率：ほぼオンライン
 - 売上高：98%、営業利益：97%、経常利益：102%
 - 当期利益：76%（約9億円の特別損失を計上）
- 配当予想：101円（一株当たり）

● **2026年12月期 予想**

- 増収増益見込み：売上高 104%、営業利益 101%、経常利益 98%、当期利益 110%
- 中期経営計画（2022年～2026年）予想：2026年12月期予想に合わせ最終年度予想値を修正
- 配当予想：101円（一株当たり）

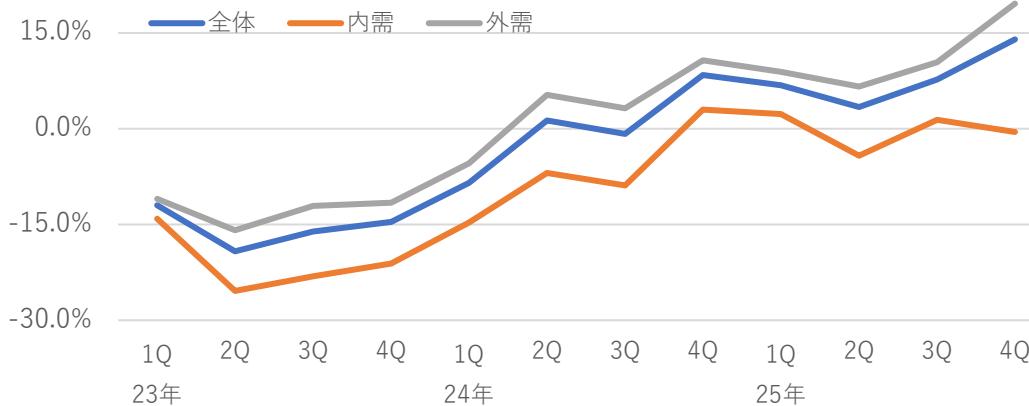
● **新中期経営計画**

- 新中期経営計画（2027年～2029年）を策定中。2026年6月に前倒し公表予定



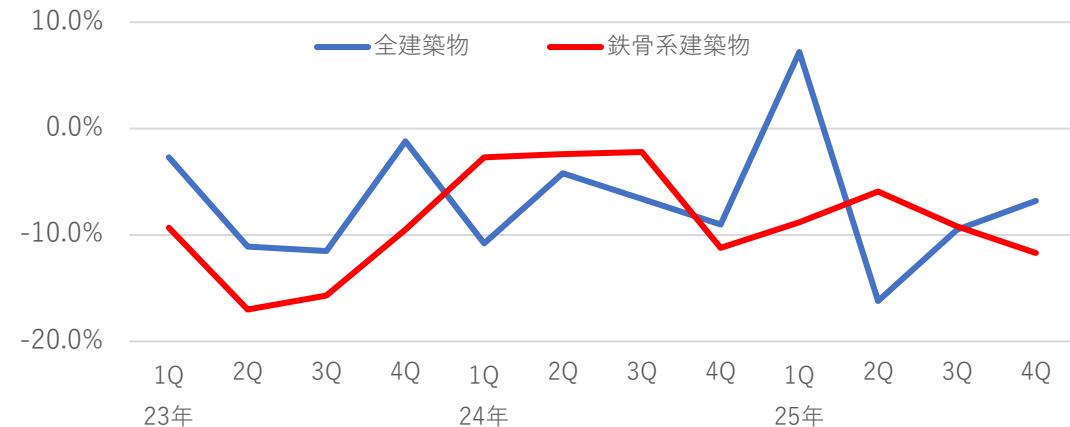
工作機械受注額（前年同期比増減）

- 〔内需〕 Q1+2.3%、Q2▲4.2%、Q3+1.4%、Q4▲0.1%/年間▲0.2%
- 〔外需〕 Q1+8.9%、Q2+6.6%、Q3+10.4%、Q4+19.6%/年間+11.5%



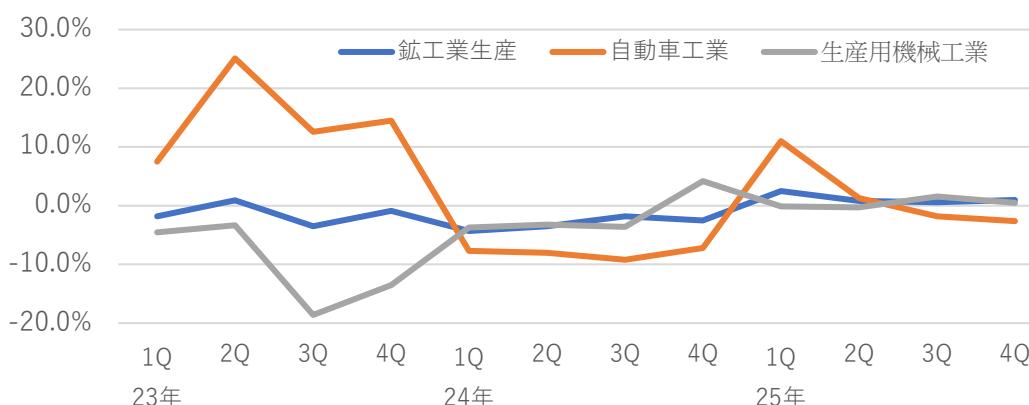
建築着工床面積（前年同期比増減）

- 〔全構造建築物〕 Q1+7.2%、Q2▲16.2%、Q3▲9.5%、Q4▲6.8%/年間▲6.7%
- 〔鉄骨系建築物〕 Q1▲8.8%、Q2▲5.9%、Q3▲9.2%、Q4▲11.7%/年間▲8.8%



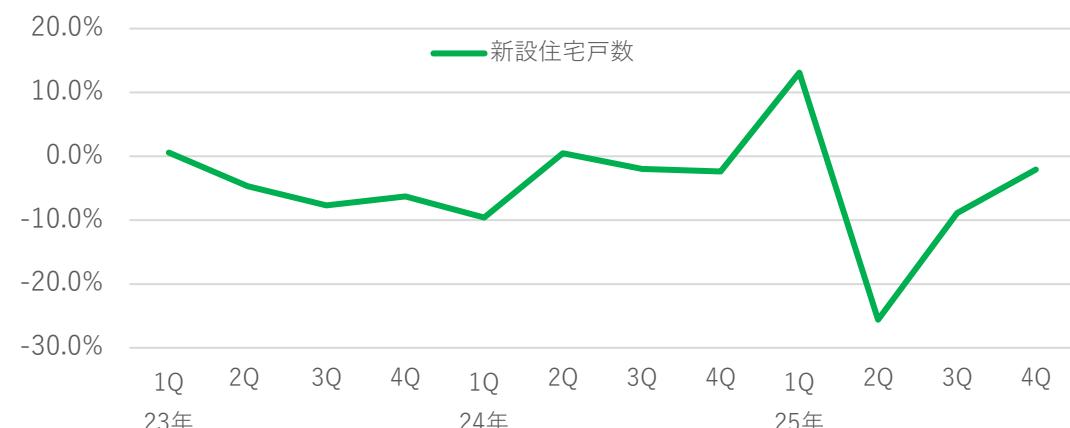
鉱工業生産指数（季節調整済）（前年同期比増減）

- 〔自動車工業〕 Q1+11.0%、Q2+1.3%、Q3▲1.8%、Q4▲2.6%
- 〔生産用機械工業〕 Q1▲0.1%、Q2▲0.3%、Q3+1.6%、Q4+0.5%



新設住宅着工戸数（前年同期比増減）

- 〔新設住宅戸数〕 Q1+13.1%、Q2▲25.6%、Q3▲8.9%、Q4▲2.1%/年間▲6.6%





連結損益計算書（前期比）

UNISOL

単位：百万円	FY2024	FY2025	YoY額	YoY%	
売上高	161,716	159,036	▲2,679	▲1.7%	建設資材セグ ▲2,876百万円
売上総利益	25,666	26,170	504	2.0%	機械・工具セグ +1,044百万円
売上総利益率	15.9%	16.5%	—	+0.6P	機械・工具セグ +1.0 point
販管費	21,806	22,789	983	4.5%	機械・工具セグ +959百万円
営業利益	3,860	3,380	▲479	▲12.4%	営業利益率 2.1% (▲0.3 point)
経常利益	4,659	4,179	▲480	▲10.3%	営業外損益 ▲1百万円
特別利益	2,683	170	▲2,512	▲93.6%	(前期: 投資有価証券売却益 2,378百万円)
特別損失	429	855	426	99.5%	貸倒引当金 200百万円、減損損失 512百万円
親会社株主に帰属する当期純利益	4,613	1,906	▲2,706	▲58.7%	



連結損益計算書（四半期進捗及び予想比）

UNISOL

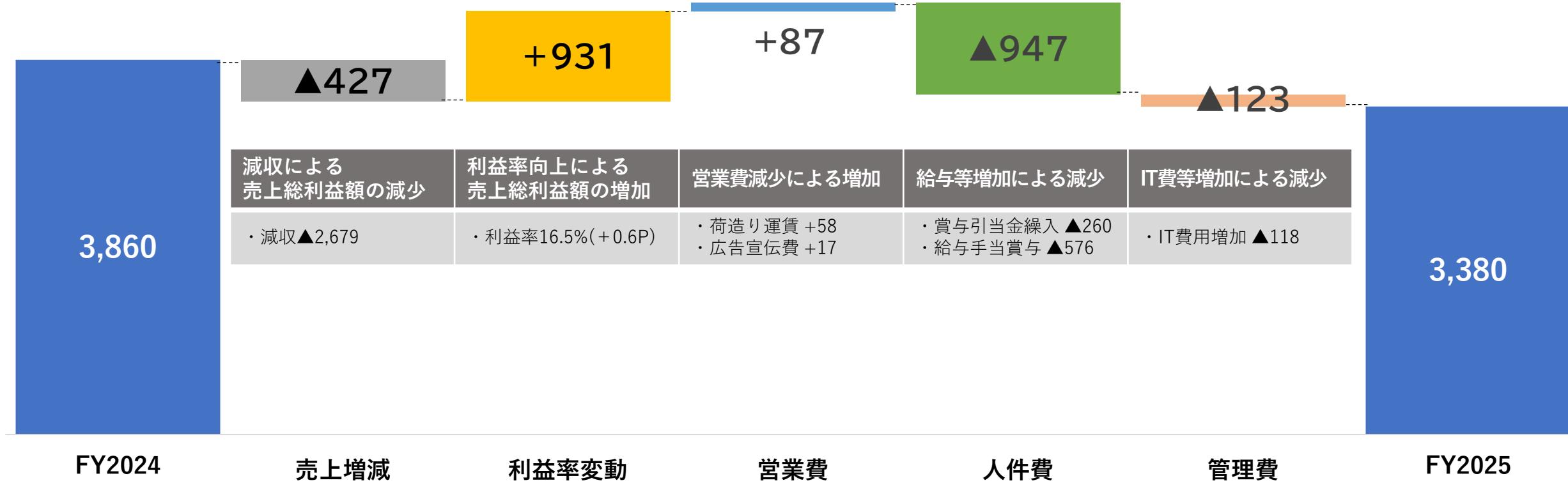
単位：百万円	FY25Q3累計	YoY%	FY25Q4	YoY%	FY2025予想	FY2025	YoY%	予想比
売上高	117,219	▲2.3%	41,816	0.2%	162,000	159,036	▲1.7%	98.2%
売上総利益	18,884	▲1.7%	7,286	12.9%	25,850	26,170	2.0%	101.2%
売上総利益率	16.1%	+0.1P	17.4%	+1.9P	16.0%	16.5%	+0.6P	+0.5P
販管費	16,869	2.3%	5,920	11.5%	22,350	22,789	4.5%	102.0%
営業利益	2,015	▲25.9%	1,365	19.6%	3,500	3,380	▲12.4%	96.6%
経常利益	2,534	▲25.5%	1,644	31.0%	4,100	4,179	▲10.3%	101.9%
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,392	▲64.7%	514	▲22.7	2,500	1,906	▲58.7%	76.3%

- Q4売上高 : 機械・工具セグ+9.1%、建設資材セグ▲8.1%、建設機械セグ▲51.8%
- Q4売上総利益 : 機械・工具セグ+29.8%（海外+105.4%）



営業利益分析（要因別）

単位：百万円





連結貸借対照表／連結キャッシュ・フロー計算書

単位：百万円	FY2024	FY2025	YoY
資産合計	120,821	117,020	▲3,801
流動資産	86,599	82,534	▲4,064
・現金及び預金	27,533	29,760	2,227
・受取手形、売掛金	28,608	22,652	▲5,955
固定資産	34,221	34,485	263
・有形固定資産	25,375	24,808	▲567
・投資その他資産	6,448	7,994	1,546
負債合計	47,448	43,144	▲4,303
流動負債	45,350	40,706	▲4,644
・支払手形及び買掛金	17,669	15,165	▲2,504
・電子記録債務	17,122	15,344	▲1,778
固定負債	2,097	2,437	340
純資産合計	73,373	73,876	502
自己資本	72,339	72,686	346
・株主資本	69,937	69,225	▲711
非支配株主持分	1,034	1,189	155
自己資本比率	59.9%	62.1%	

単位：百万円	FY2024	FY2025	YoY
営業活動による キャッシュ・フロー	7,863	5,503	▲2,360
投資活動による キャッシュ・フロー	1,433	▲1,261	▲2,694
フリー キャッシュ・フロー	9,296	4,241	▲5,054
財務活動による キャッシュ・フロー	▲3,368	▲2,652	715
現金及び現金同等物の 期末残高	26,129	27,792	1,662
・営業CF：税引前当期純利益	+ 3,493	(YoY ▲3,420)	
売上債権の減少	+ 6,479	(YoY + 3,270)	
仕入債務の減少	▲5,054	(YoY ▲5,233)	
・投資CF：投資有価証券売却による収入	+ 52	(YoY ▲3,005)	
・財務CF：自己株式取得による支出	▲1,647	(YoY ▲836)	
自己株式処分による収入	+ 1,652	(YoY + 1,652)	
配当金の支出額	▲2,602	(YoY ▲501)	



事業セグメントの概要

ユニソルホールディングス(株)

2026年1月社名変更

UNISOLビジネスパートナーズ(株)

シェアードサービス会社

セグメント	機械・工具					建設資材			建設機械	IoTソリューション
中核会社	ユニソル(株)*1					フルサト工業(株)*3			(株)マルカ*2	(株)セキュリティデザイン
事業分野	産業機械	機械・工具	グローバル	エンジニアリング	食品	鉄構資材	配管資材	住宅設備	—	—
関連会社 (国内)	• 管製作所*3 • アルプラス*3 • TSプレシジョン*3	• ソノルカエンジニアリング*3 • 北九金物工具 • 岐阜商事	—			—			ジャパンレンタル	—
関連会社 (海外)	• 北米 (USA、メキシコ、ITI*3) • 中国 (上海、広州) • 東南アジア (タイ、ベトナム、マレーシア、インドネシア、USI*3)	—			—			—	—	—

*1：2026年1月、(株)マルカ、(株)ジーネット統合により設立

*2：2026年1月、旧マルカ建機部門の事業譲渡を受け事業開始

*3：メーカー機能／エンジニアリング機能を持つ会社



連結損益計算書 セグメント別

単位：百万円

	FY2024		FY2025		YoY額	YoY率
売上高（構成比）	161,716	(100.0%)	159,036	(100.0%)	▲2,679	▲1.7%
■ 機械・工具セグメント	104,767	(64.8%)	104,904	(66.0%)	136	0.1%
■ 建設資材セグメント	44,947	(27.8%)	42,070	(26.5%)	▲2,876	▲6.4%
■ 建設機械セグメント	8,413	(5.2%)	8,165	(5.1%)	▲247	▲2.9%
■ IoTソリューションセグメント	3,588	(2.2%)	3,896	(2.5%)	308	8.6%
売上総利益（対売上高）	25,666	(15.9%)	26,170	(16.5%)	504	2.0%
■ 機械・工具セグメント	15,196	(14.5%)	16,241	(15.5%)	1,044	6.9%
■ 建設資材セグメント	8,380	(18.6%)	7,759	(18.4%)	▲620	▲7.4%
■ 建設機械セグメント	853	(10.1%)	851	(10.4%)	▲1	▲0.2%
■ IoTソリューションセグメント	1,236	(34.5%)	1,318	(33.8%)	82	6.7%
営業利益（対売上高）	3,860	(2.4%)	3,380	(2.1%)	▲479	▲12.4%
■ 機械・工具セグメント	2,019	(1.9%)	2,104	(2.0%)	85	4.2%
■ 建設資材セグメント	1,576	(3.5%)	953	(2.3%)	▲623	▲39.5%
■ 建設機械セグメント	200	(2.4%)	147	(1.8%)	▲52	▲26.3%
■ IoTソリューションセグメント	188	(5.3%)	246	(6.3%)	58	30.8%
■ 調整	▲124	—	▲71	—	53	—



連結損益計算書 セグメント別 (四半期進捗及び予想比)



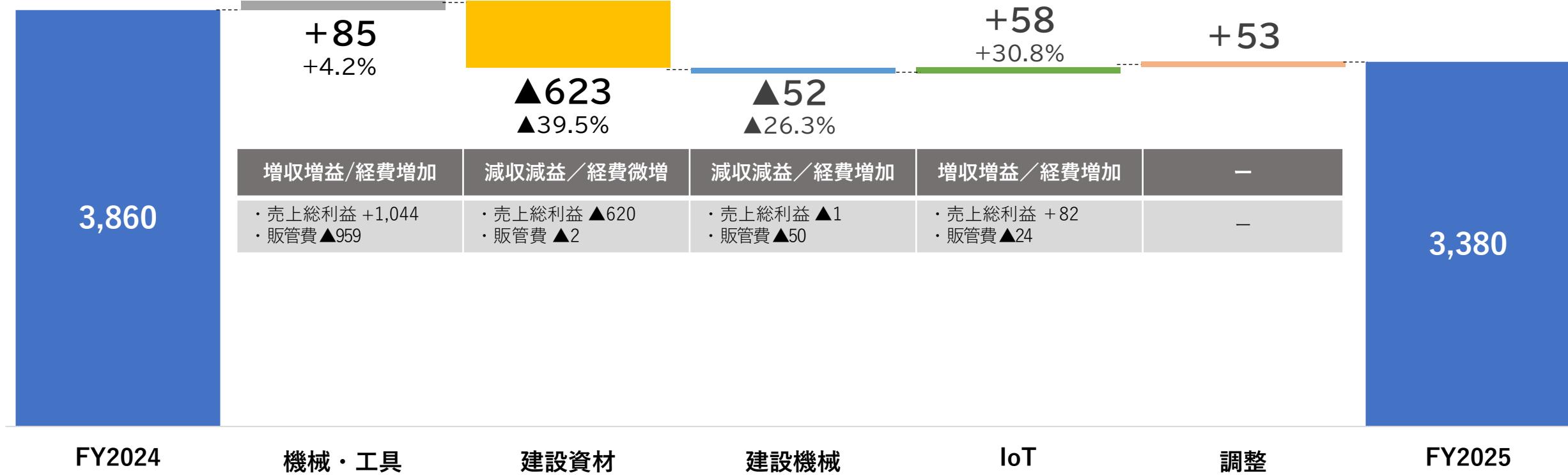
単位：百万円	FY25Q3累計	YoY	FY25Q4	YoY	FY2025予想	FY2025	YoY	予想比
売上高	117,219	▲2.3%	41,816	0.2%	162,000	159,036	▲1.7%	98.2%
■ 機械・工具セグメント	76,178	▲2.9%	28,725	9.1%	106,150	104,904	0.1%	98.8%
■ 建設資材セグメント	31,227	▲5.8%	10,842	▲8.1%	43,140	42,070	▲6.4%	97.5%
■ 建設機械セグメント	6,809	21.6%	1,356	▲51.8%	8,900	8,165	▲2.9%	91.8%
■ IoTソリューションセグメント	3,003	8.2%	893	9.9%	3,810	3,896	8.6%	102.3%
売上総利益	18,884	▲1.7%	7,286	12.9%	25,850	26,170	2.0%	101.2%
■ 機械・工具セグメント	11,464	▲0.4%	4,776	29.8%	15,750	16,241	6.9%	103.1%
■ 建設資材セグメント	5,744	▲6.7%	2,014	▲9.3%	7,900	7,759	▲7.4%	98.2%
■ 建設機械セグメント	687	18.7%	163	▲40.1%	920	851	▲0.2%	92.6%
■ IoTソリューションセグメント	987	2.8%	331	20.0%	1,260	1,318	6.7%	104.6%
営業利益	2,015	▲25.9%	1,365	19.6%	3,500	3,380	▲12.4%	96.6%
■ 機械・工具セグメント	1,197	▲8.3%	907	27.2%	2,180	2,104	4.2%	96.5%
■ 建設資材セグメント	551	▲56.1%	401	25.2%	980	953	▲39.5%	97.3%
■ 建設機械セグメント	188	115.0%	▲40	—	240	147	▲26.3%	61.5%
■ IoTソリューションセグメント	196	11.5%	50	295.0%	200	246	30.8%	123.3%
■ 調整	▲118	—	46	—	▲100	▲71	—	—



営業利益分析 対前年実績比（セグメント別）

UNISOL

単位：百万円



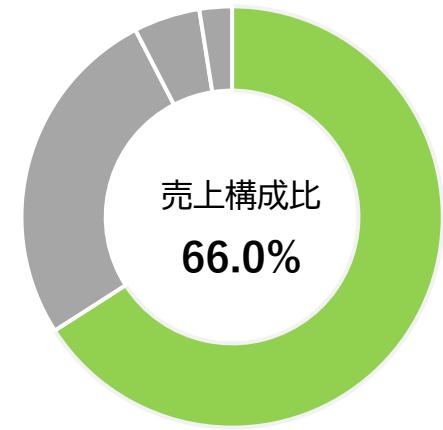


機械・工具セグメント実績

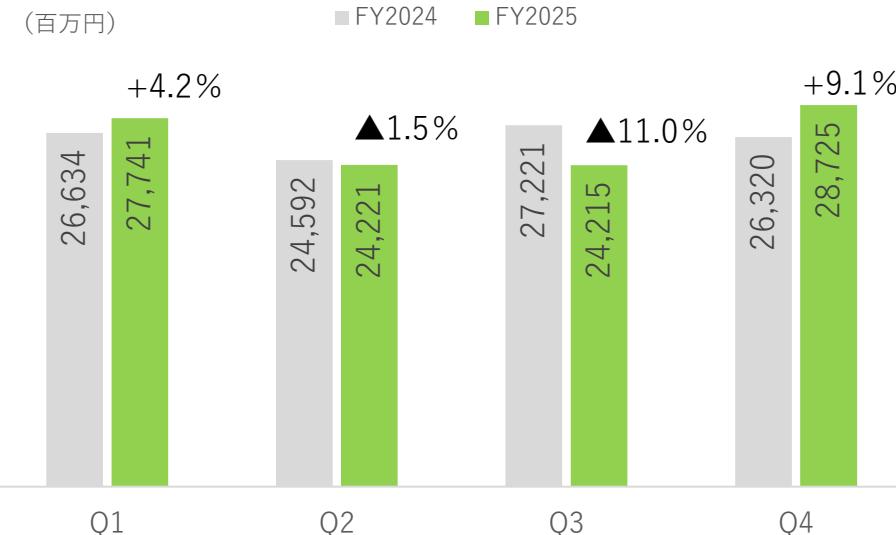
UNISOL

単位：百万円

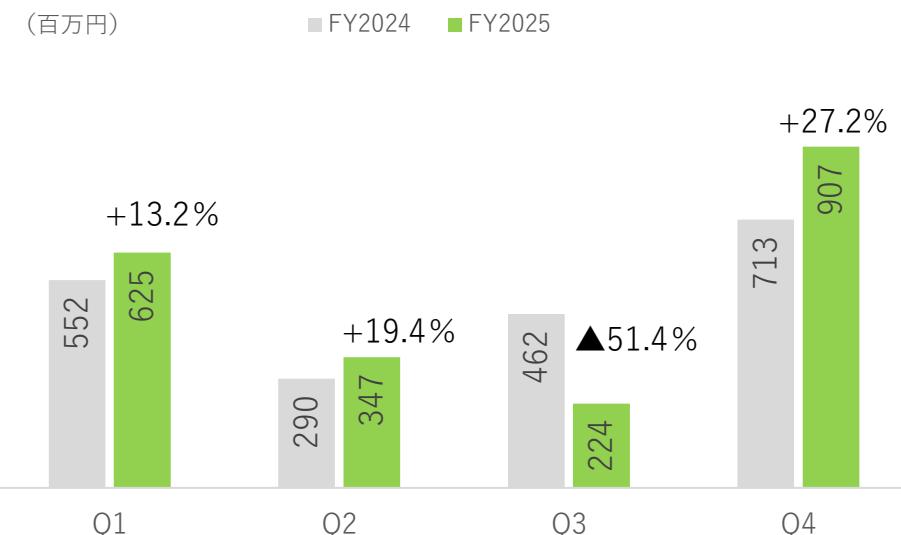
	売上高	YoY	売上総利益	YoY	営業利益	YoY
セグメント全体	104,904	+0.1%	16,241	+6.9%	2,104	+4.2%
(内訳)	売上高	YoY	(Q3累計売上高)	(YoY)	(Q4売上高)	(YoY)
・国内機械	32,462	▲10.4%	24,525	▲9.7%	7,937	▲12.3%
・海外機械	27,613	+14.4%	18,179	+2.1%	9,434	+49.3%
・国内工具	44,827	+0.9%	33,473	+0.0%	11,353	+3.7%



■セグメント売上高四半期推移



■セグメント利益四半期推移



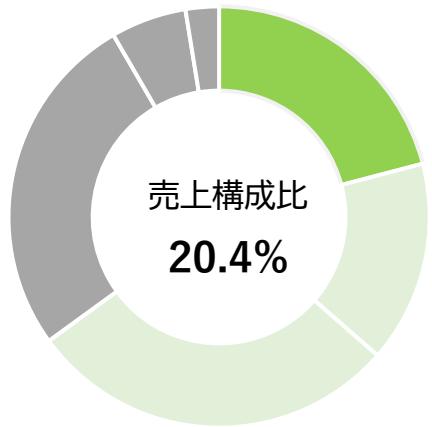
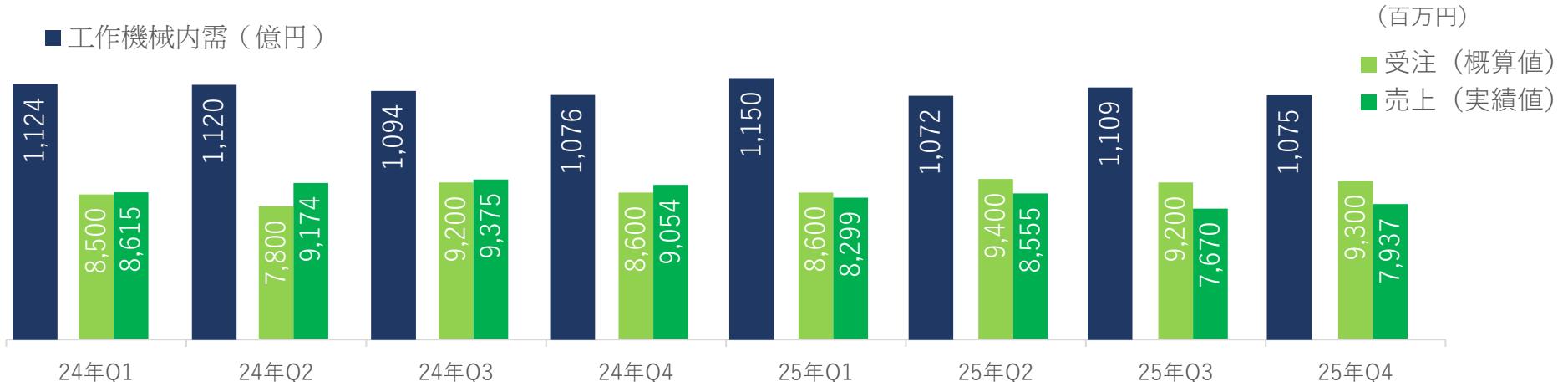
● 主な事業内容

産業機械や産業ロボットなどの「機械販売」、機械周辺の工具類や消耗品などの「工具販売」、食品加工機械や洗浄機などの「機械製造」を国内・北米・アジアのマーケットで展開する



機械・工具セグメント 国内機械分野

工作機械内需受注（日工会）/当分野受注高・売上高推移



- 工作機械受注統計（日本工作機械工業会）の内需受注は2025年4,408億円（前年比99.8%）ほぼ横ばい
 - 機械受注統計需要者別（内閣府）の製造業は2025年（1～11月）4兆8,214億円（前年比105.4%）微増
- 当分野の受注は36,500百万円（概算値）となり、前年比107%

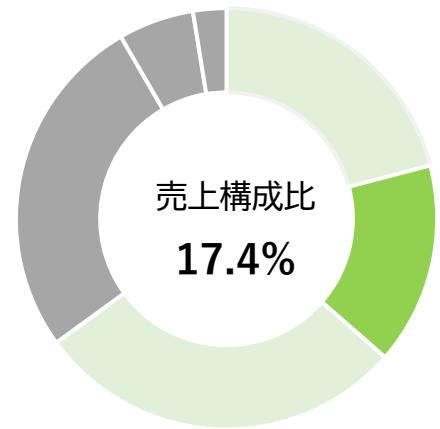
単位：百万円	売上高	YoY	(Q3累計売上高)	(YoY)	(Q4売上高)	(YoY)
国内機械分野	32,462	▲10.4%	24,525	▲9.7%	7,937	▲12.3%
・直需	▲14.3%	一部の好調な自動車メーカー系列への省人化・省力化投資等、受注は好調に推移したが、期中での売上計上額は前年比2桁減				
・卸売	▲ 5.3%	設備投資に慎重な企業が多い中、地道な活動により受注は前年を上回ったものの、一部の大口案件の検収が翌期にずれ込むなどで減収				



機械・工具セグメント 海外機械分野

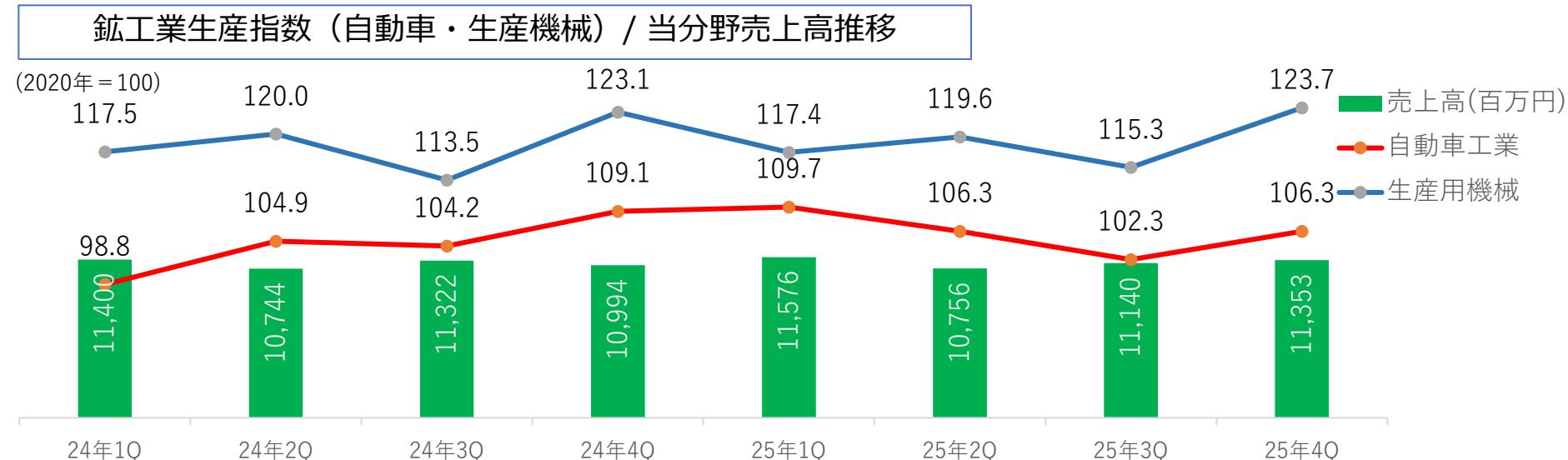
単位：百万円

	売上高	YoY	(Q3累計売上高)	(YoY)	(Q4売上高)	(YoY)
海外機械分野	27,613	+14.4%	18,179	+2.1%	9,434	+49.3%
<u>北米</u>	17,769		総代理店を担う射出成形機は需要環境が厳しく競争激化も、米系顧客向け工作機械、日系顧客向け生産設備等で受注・売上共に好調。エンジニアリング事業も増収確保したが下期以降の受注は減速			
<u>東南アジア</u>	8,429					
・ タイ	3,502		【増収】日系二輪車等大口案件の納入開始や、修理サービス・部品販売等循環型事業の売上比率向上し、微増収			
・ インドネシア	2,062		【増収】自動車関連の不振継続も大手食品新工場向け設備納入、エンジニアリング事業での食品や二輪関連の設備案件により受注・売上増加し、5割増収			
・ マレーシア	1,236		【減収】税制改正により設備投資需要が低下し、中国への生産移管が進む中、中国製品の取扱いを増加させるも、1桁減収			
・ ベトナム	503		【減収】注力している修理・サービス事業が下期より貢献し始めたが、設備案件受注の低調により、2桁減収			
<u>中国</u>	1,409	▲42.7%	中国製溶解炉などの受注は前年を上回ったが、不振が続く現地日系自動車部品メーカーの低調な設備投資意欲継続が影響			

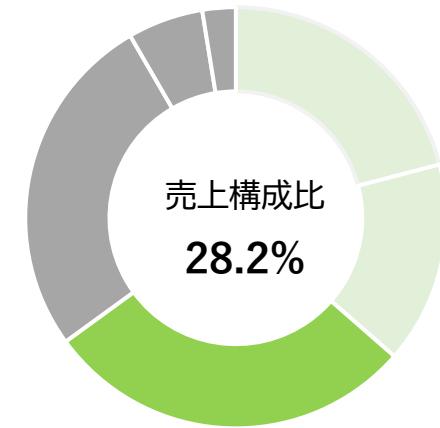




機械・工具セグメント 国内工具分野



- 鉱工業生産指数（経済産業省）は自動車工業、生産用機械工業ともほぼ横ばいで推移
- 当分野の売上高は44,827百万円となり、前年比100.9%



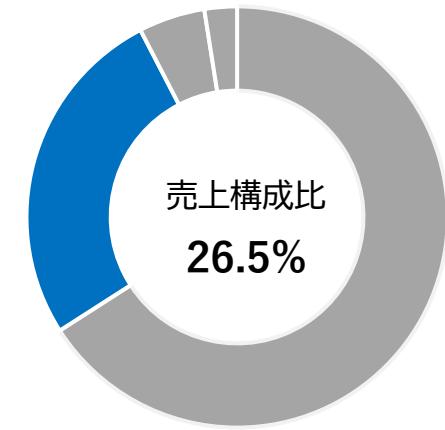
単位：百万円	売上高	YoY	(Q3累計売上高)	(YoY)	(Q4売上高)	(YoY)
国内工具分野	44,827	+0.9%	33,473	+0.0%	11,353	+3.7%
・直需	▲ 1.2%	一部の好調な自動車メーカー系列の安定生産に支えられた反面、主要機械メーカー向けの部品販売などが低調				
・卸売	+ 1.4%	機械加工周辺、空油圧・組み込み関連が低調な中、環境・省エネ設備への注力、値上げ転化などにより微増				



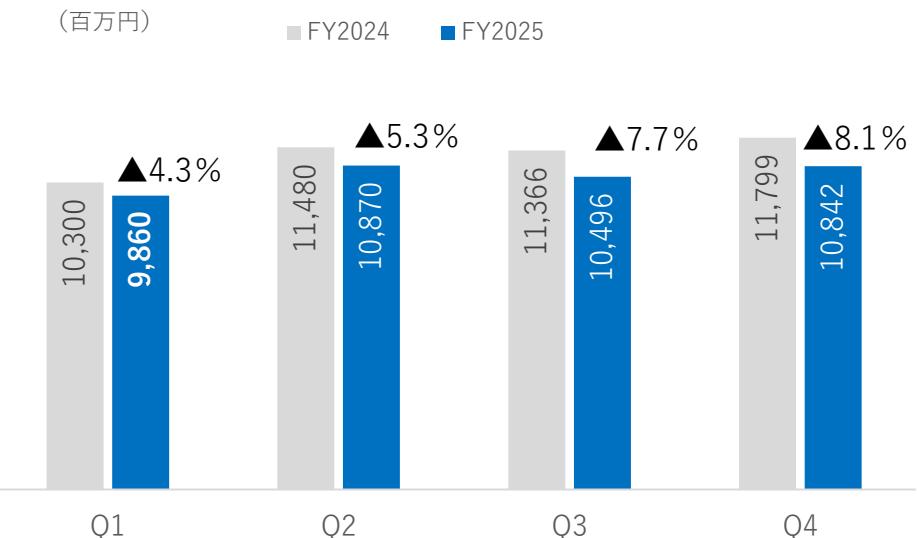
建設資材セグメント実績

単位：百万円

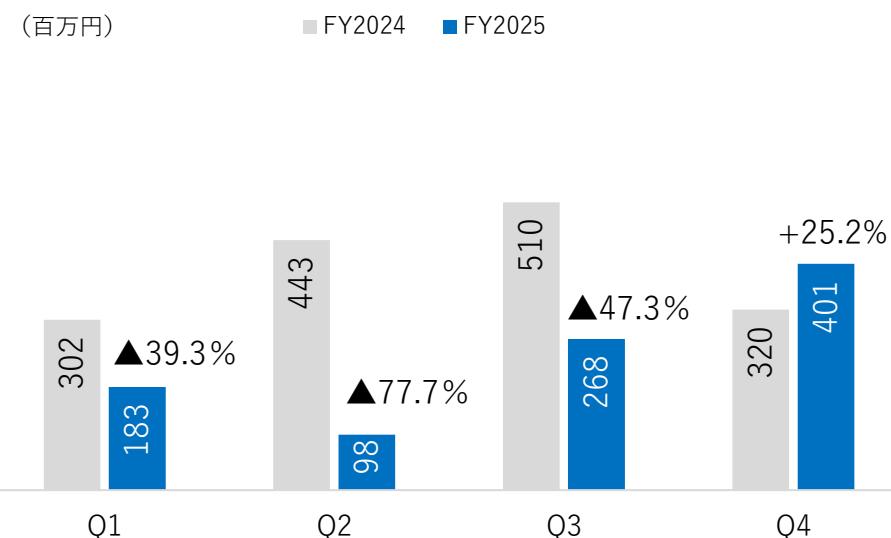
	売上高	YoY	売上総利益	YoY	営業利益	YoY
セグメント全体	42,070	▲6.4%	7,759	▲7.4%	953	▲39.5%
(内訳)	売上高	YoY	(Q3累計売上高)	(YoY)	(Q4売上高)	(YoY)
・鉄構資材	27,579	▲10.3%	20,524	▲10.0%	7,054	▲11.3%
・配管資材	8,299	▲1.6%	6,202	▲0.6%	2,097	▲4.3%
・住宅設備	6,191	+7.5%	4,500	+9.7%	1,690	+1.9%



■セグメント売上高四半期推移



■セグメント利益四半期推移



● 主な事業内容

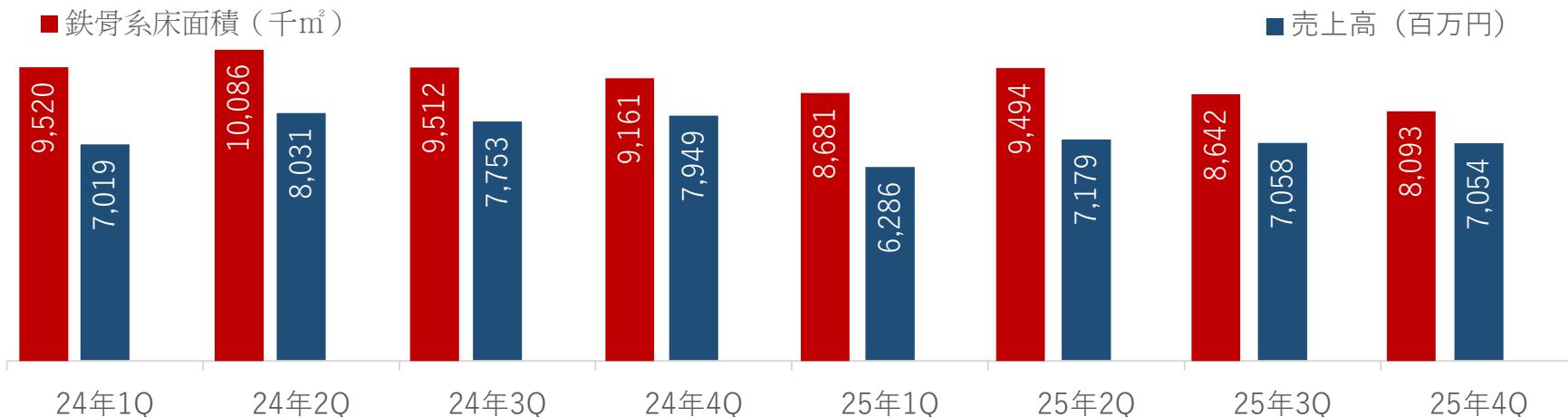
鉄骨建築に用いられる構造部材やボルト類などの「鉄構資材販売」、配管の継手やパイプなどの「配管資材販売」と、キッチンやバス、トイレなどの「住宅設備販売」を国内中心に展開する



建設資材セグメント 鉄構資材分野

UNISOL

建築着工床面積 (S+SRC造) / 当分野売上高推移

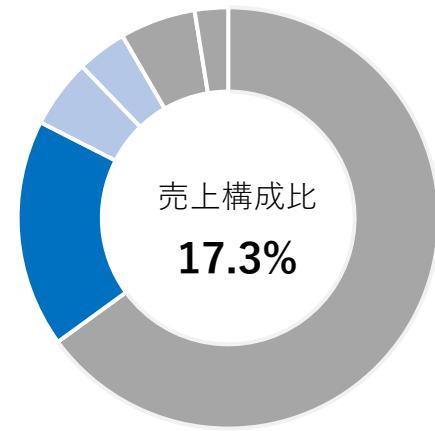


- 建築着工床面積 (国土交通省, 千m²) の構造別鉄骨系は23年40,935、24年38,280、25年34,909と減少続く
 - 働き方改革 (4週8閉所) による一定期間内における工事消化量の減少 (▲10~15%)
- 当分野の売上高は27,579百万円となり、前年比89.7%

単位：百万円

	売上高	YoY	(Q3累計売上高)	(YoY)	(Q4売上高)	(YoY)
鉄構資材分野	27,579	▲10.3%	20,524	▲10.0%	7,054	▲11.3%

- 工事単価上昇による中小型物件数の低迷、大型物件の中止・延期、慢性的の人手不足による工期延長等の影響を受け、建築副資材需要が低迷
- 案件数減少による価格競争機会の増加
- 大型加工機械（ユニソル商材を含む）、レーザー溶接機・ウッドプレースなど自社オリジナル商材の販売、柱脚工法の基礎施工など収益機会の増加に注力





建設資材セグメント

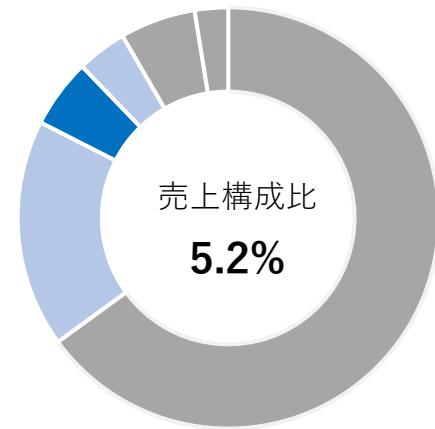
配管資材分野・住宅設備分野

UNISOL

単位：百万円

	売上高	YoY	(Q3累計売上高)	(YoY)	(Q4売上高)	(YoY)
配管資材分野	8,299	▲1.6%	6,202	▲0.6%	2,097	▲4.3%

- 東日本ではプラント案件を中心として堅調に受注確保
- 西日本では大型案件（EV関連、半導体関連）の新築、新設案件減少
- 材料市況価格の影響により資材価格競争が激化
- 大型産業機械、配管加工機械等の受注が堅調



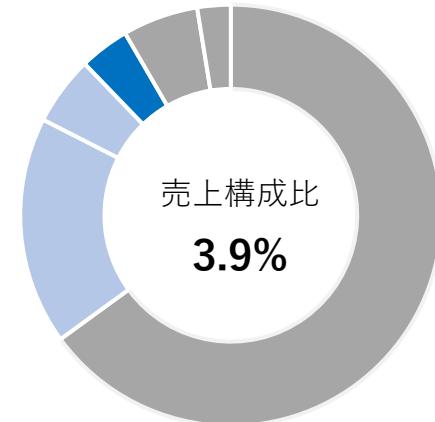
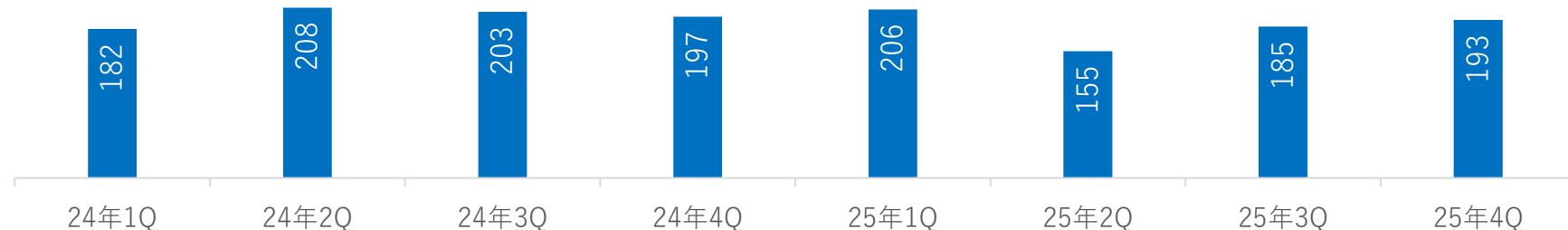
単位：百万円

	売上高	YoY	(Q3累計売上高)	(YoY)	(Q4売上高)	(YoY)
住宅設備分野	6,191	+7.5%	4,500	+9.7%	1,690	+1.9%

- 卸売中心に主力メーカー商品（LIXIL、リンナイ等）の拡販
- 施工店向けや個人宅向け販売の強化

- 新設住宅着工戸数（国土交通省）は24年792,195戸、25年740,297戸（前年比▲6.6%）

■新設住宅着工戸数（千戸）



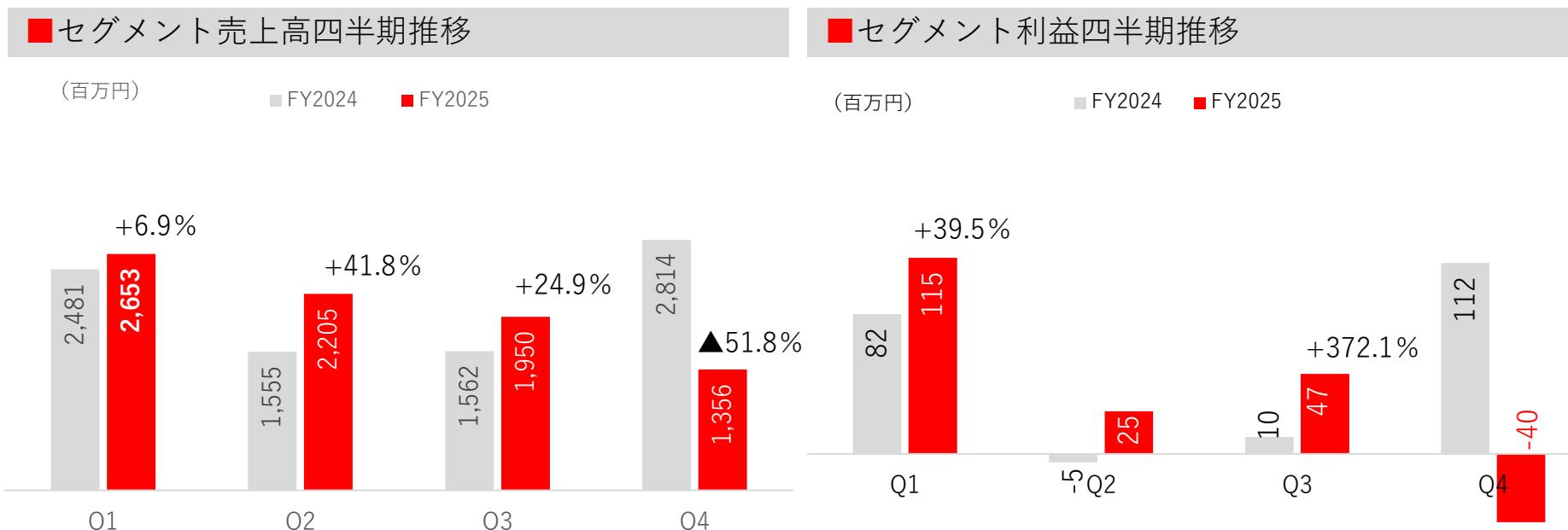
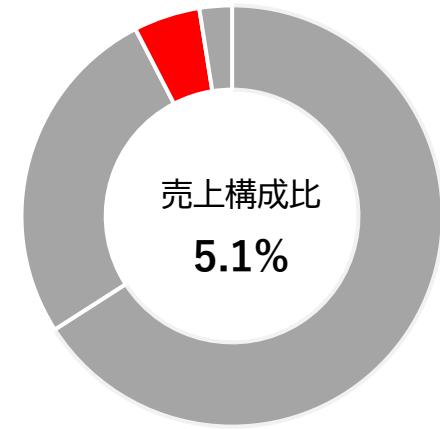


建設機械セグメント実績

- 建設機械出荷台数統計（日本建設機械工業会）におけるクローラークレーンは333台（前年比▲0.3%）

セグメント全体	売上高 8,165	YoY ▲2.9%	売上総利益 851	YoY ▲0.2%	営業利益 147	YoY ▲26.3%
単位：百万円						

- 基礎業者向けにクレーン、基礎機械に注力
- 中古機械の販売も堅調に推移
- 24年末からの値上げ前受注の反動で下期売上は減少



クレーンやショベル、基礎用機械など「建設機械販売とレンタル」を土木建設業や看板設置業など国内中心に展開し、中古機械も取り扱う



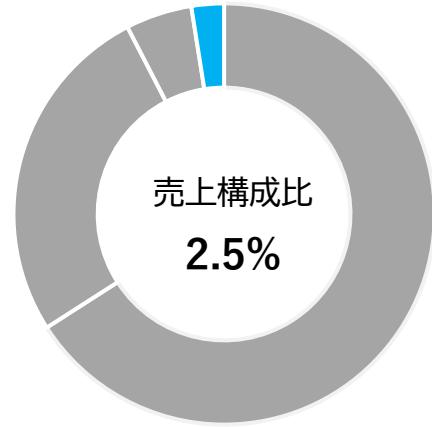
IoTソリューションセグメント実績

- 主要商材であるセキュリティカメラ市場は、防犯意識の高まりや、画像解析・エッジAI活用による自動監視技術の実現等で、年平均2割近い成長が見込まれる

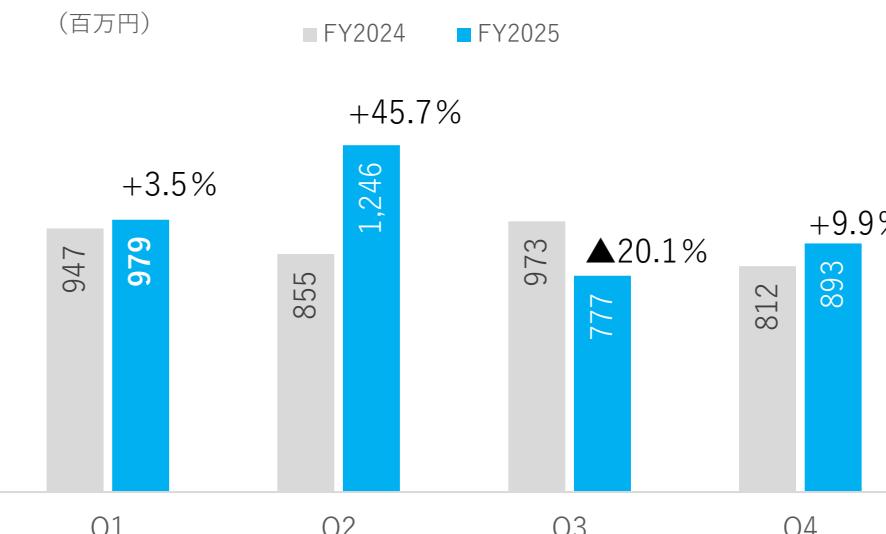
単位：百万円

セグメント全体	売上高 3,896	YoY +8.6%	売上総利益 1,318	YoY +6.7%	営業利益 246	YoY +30.8%
---------	--------------	--------------	----------------	--------------	-------------	---------------

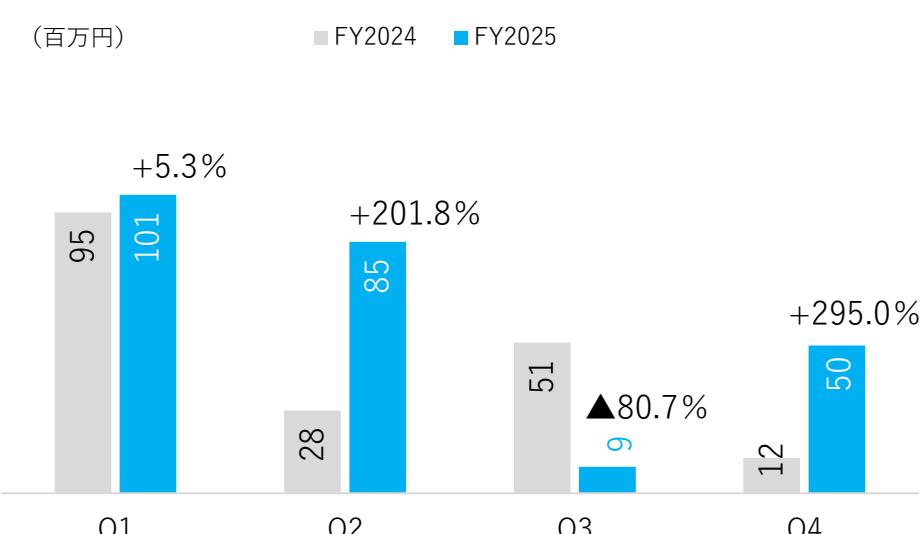
- 大手警備会社向けを中心にカメラ等の機器販売が堅調
- 上期を中心にデータセンター向け等大型プロジェクト（警備会社経由、外資向け直販）
- 新規自社ブランド商品投入による新規開拓を加速



■セグメント売上高四半期推移



■セグメント利益四半期推移



● 主な事業内容

監視カメラや入室管理システム、AGVなどの自動搬送ロボット、クラウドサービスなど、監視機器を中心としたビジネスをビル管理業や警備保障業、公共施設などを対象に国内中心に展開する



2026年12月期 通期業績予想



業績予想（前年実績比較）

単位：百万円

	FY2025			FY2026			増減率		
	上期実績	下期実績	通期実績	上期予想	下期予想	通期予想	上期	下期	通期
売 上 高	79,779	79,257	159,036	81,000	84,000	165,000	1.5%	6.0%	3.8%
売 上 総 利 益	12,858	13,132	26,170	13,200	14,060	27,260	2.7%	5.6%	4.2%
売 上 総 利 益 率	16.1%	16.8%	16.5%	16.3%	16.7%	16.5%	+0.2P	▲0.1P	±0P
販 管 費	11,351	11,438	22,789	11,800	12,060	23,860	4.0%	5.4%	4.7%
営 業 利 益	1,507	1,873	3,380	1,400	2,000	3,400	▲7.1%	6.7%	0.6%
経 常 利 益	1,856	2,322	4,179	1,730	2,370	4,100	▲6.8%	2.1%	▲1.9%
親 会 社 株 主 に 帰 属 す る 四 半 期 純 利 益	996	910	1,906	840	1,260	2,100	▲15.7%	38.4%	10.1%



業績予想 セグメント別（前年実績比較）

単位：百万円

	FY2025			FY2026			増減率		
	上期実績	下期実績	通期実績	上期予想	下期予想	通期予想	上期	下期	通期
売上高	79,779	79,257	159,036	81,000	84,000	165,000	1.5%	6.0%	3.8%
■ 機械・工具セグメント	51,963	52,940	104,904	53,000	55,800	108,800	2.0%	5.4%	3.7%
■ 建設資材セグメント	20,730	21,339	42,070	22,000	22,000	44,000	6.1%	3.1%	4.6%
■ 建設機械セグメント	4,859	3,306	8,165	3,900	3,900	7,800	▲19.7%	17.9%	▲4.5%
■ IoTソリューションセグメント	2,226	1,670	3,896	2,100	2,300	4,400	▲5.7%	37.7%	12.9%
売上総利益	12,858	13,312	26,170	13,200	14,060	27,260	2.7%	5.6%	4.2%
■ 機械・工具セグメント	7,855	8,385	16,241	8,100	8,790	16,890	3.1%	4.8%	4.0%
■ 建設資材セグメント	3,796	3,963	7,759	4,000	4,130	8,130	5.4%	4.2%	4.8%
■ 建設機械セグメント	476	375	851	400	430	830	▲16.0%	14.5%	▲2.6%
■ IoTソリューションセグメント	730	588	1,318	700	710	1,410	▲4.1%	20.7%	6.9%
営業利益	1,507	1,873	3,380	1,400	2,000	3,400	▲7.1%	6.7%	0.6%
■ 機械・工具セグメント	972	1,131	2,104	760	1,130	1,890	▲21.9%	▲0.1%	▲10.2%
■ 建設資材セグメント	282	670	953	530	640	1,170	87.5%	▲4.6%	22.7%
■ 建設機械セグメント	140	6	147	90	110	200	▲36.2%	1553.4%	35.5%
■ IoTソリューションセグメント	186	60	246	120	120	240	▲35.5%	98.3%	▲2.7%
■ 調整	-75	4	-71	-100	0	-100	—	—	—

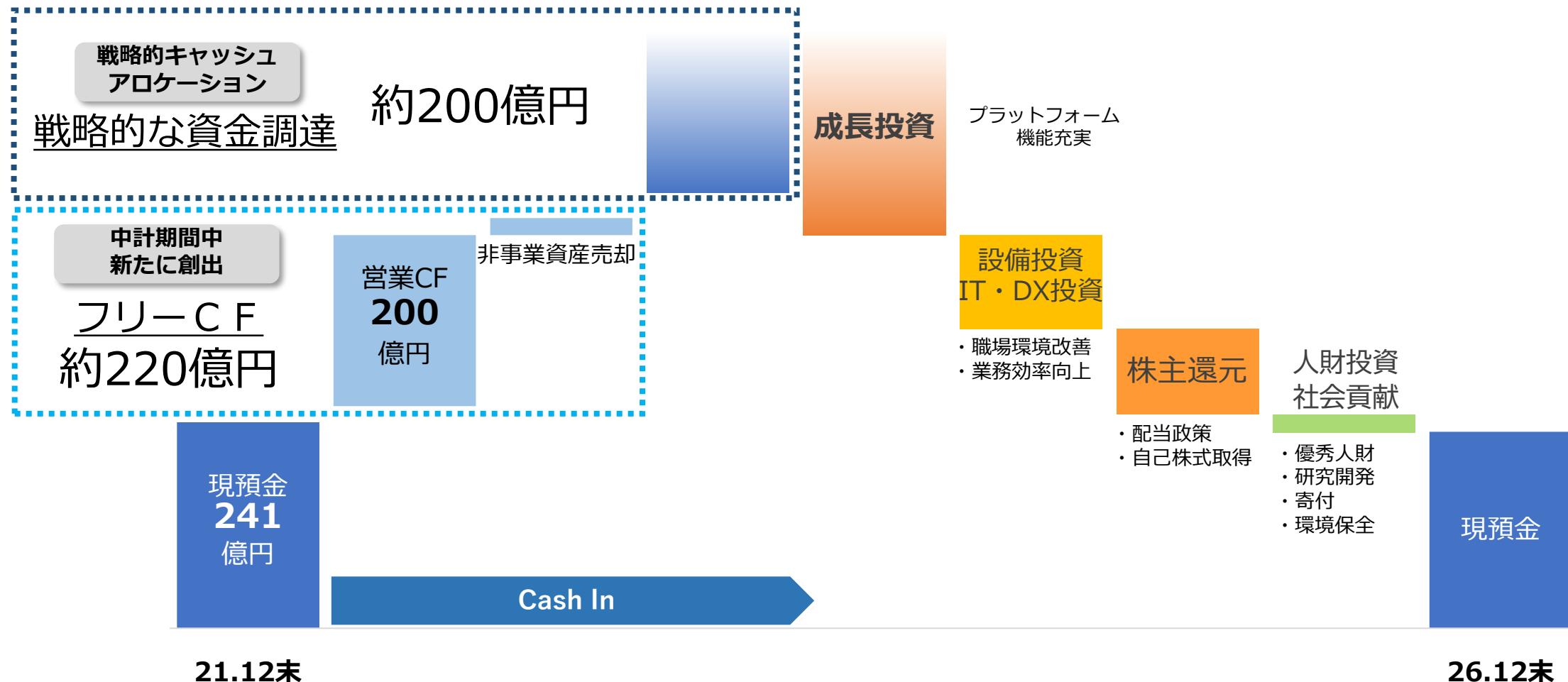


3

財務資本戰略・利益還元方針

財務資本戦略／キャッシュアロケーション方針

- 中計期間におけるキャッシュインを成長投資、設備投資、IT・DX投資、株主還元、人財投資・社会貢献へ戦略的にキャッシュアウト

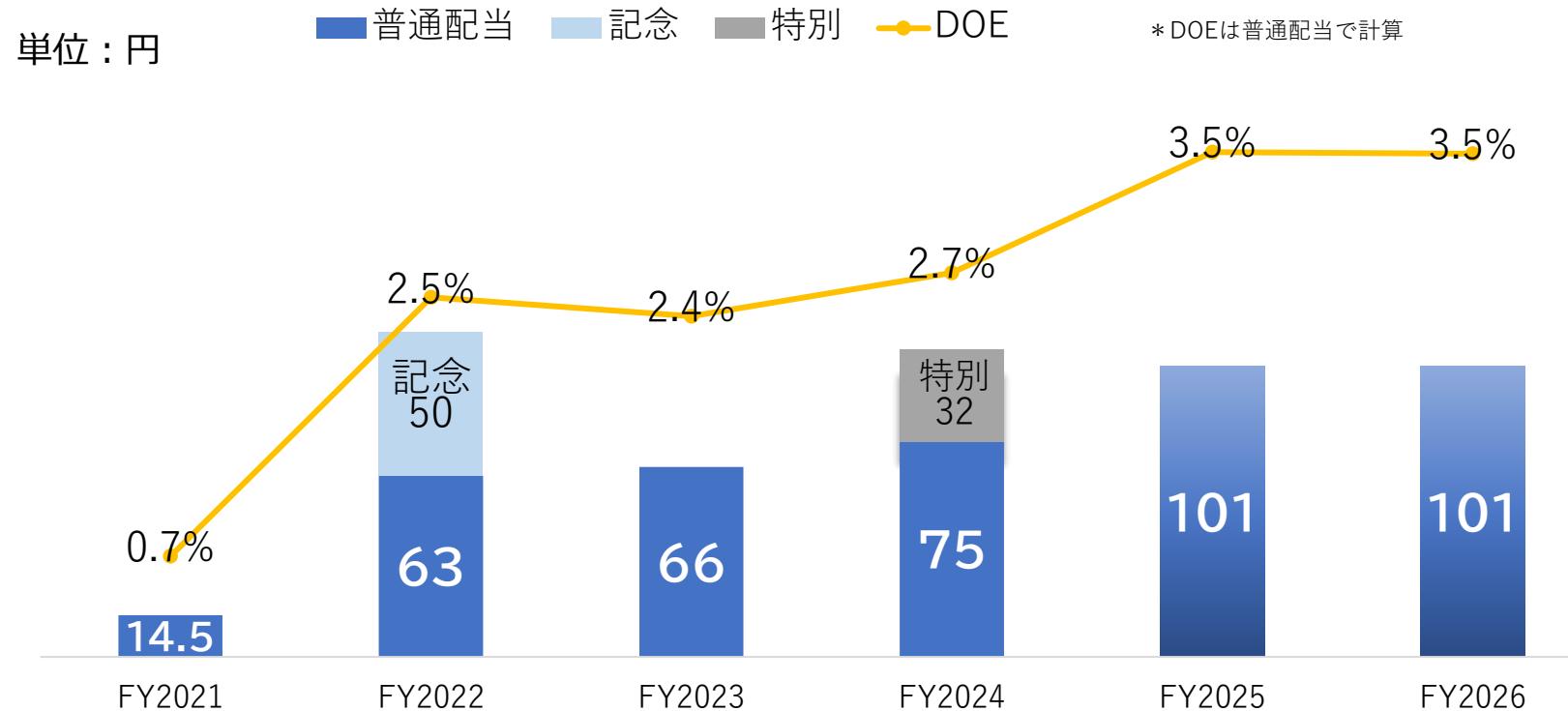


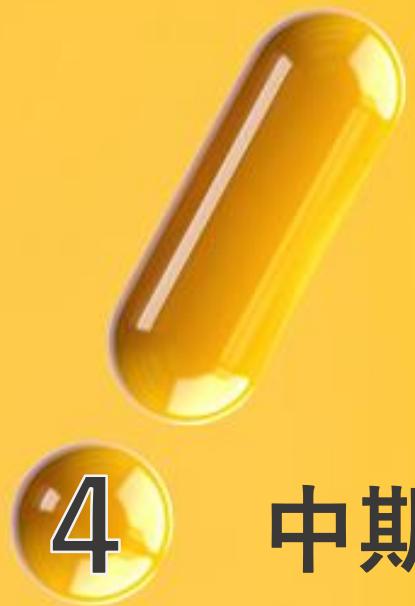


利益還元方針／配当施策

- 安定的、継続的な累進配当実現のため配当性向⇒DOE基準へ変更
- DOE3.5%達成時期の前倒し：次期中計期間（2027-29年）→2025年
- 利益水準や財務状況に応じ特別配当など機動的な株主還元を実施

DOE3.5% (期首株主資本×3.5%) 配当予想**101円** (1株当たり)





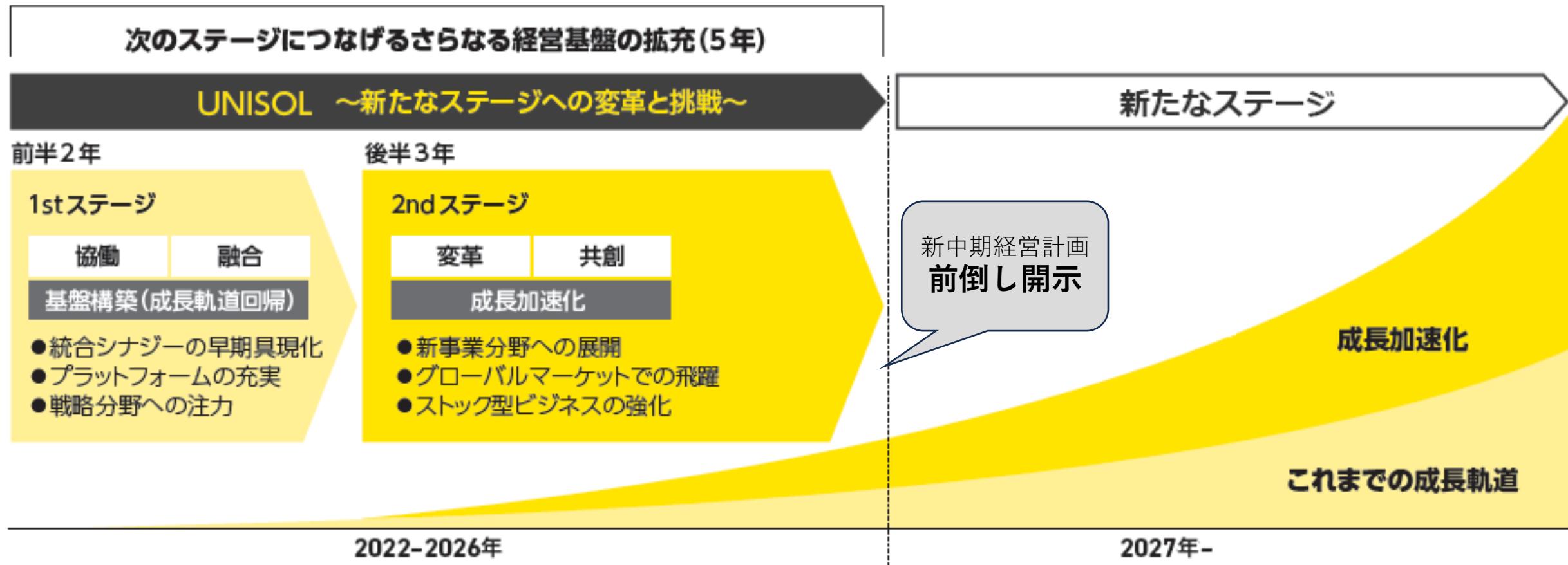
4 中期経営計画『UNISOL』(2022-2026)



成長に向けたロードマップ

「10年後のあるべき姿」の実現に向けて段階的に取り組みを推進

- 現在進行している中期経営計画「UNISOL」（2022–2026年）では、「さらなる経営基盤の拡充」をテーマとし、基盤構築（成長軌道回帰）、成長加速化を掲げ推進中
- 2027年からの新たなステージに向けて、新中期経営計画の策定プロジェクトを発足させ準備中
- 新中期経営計画を2026年6月に前倒し開示予定





最終年度2026年
公表計画



最終年度2026年
今回修正計画

▲8%



売上高見直し理由

- 2025年8月発表のMT Food Systems社グループ化による売上増加 (+30億円)
- 為替見直しによる影響 (+16億円)
- 2025年度海外受注増加による增收 (+12億円)
- ユニソル（株）での機器工具拡販シナジー増加 (+5億円)
- 機械工具セグメント：米国関税影響等による設備投資案件の停滞 (▲138億円)
- 建設資材セグメント：建設需要低迷と競争激化(▲35億円)
- EV関連施策の停滞 (▲25億円)
- 自動化・省人化施策の遅れ (▲6億円)



最終年度 販管費・営業利益目標値の見直し

最終年度2026年
公表計画



+5%

最終年度2026年
今回修正計画



販管費見直し理由

- MT Food Systems社グループ化による経費増（のれん償却等、+5億円）
- 為替見直しによる影響（+3億円）
- 人材戦略の一環による給与水準引き上げ（+1億円）

営業利益



▲8%

営業利益



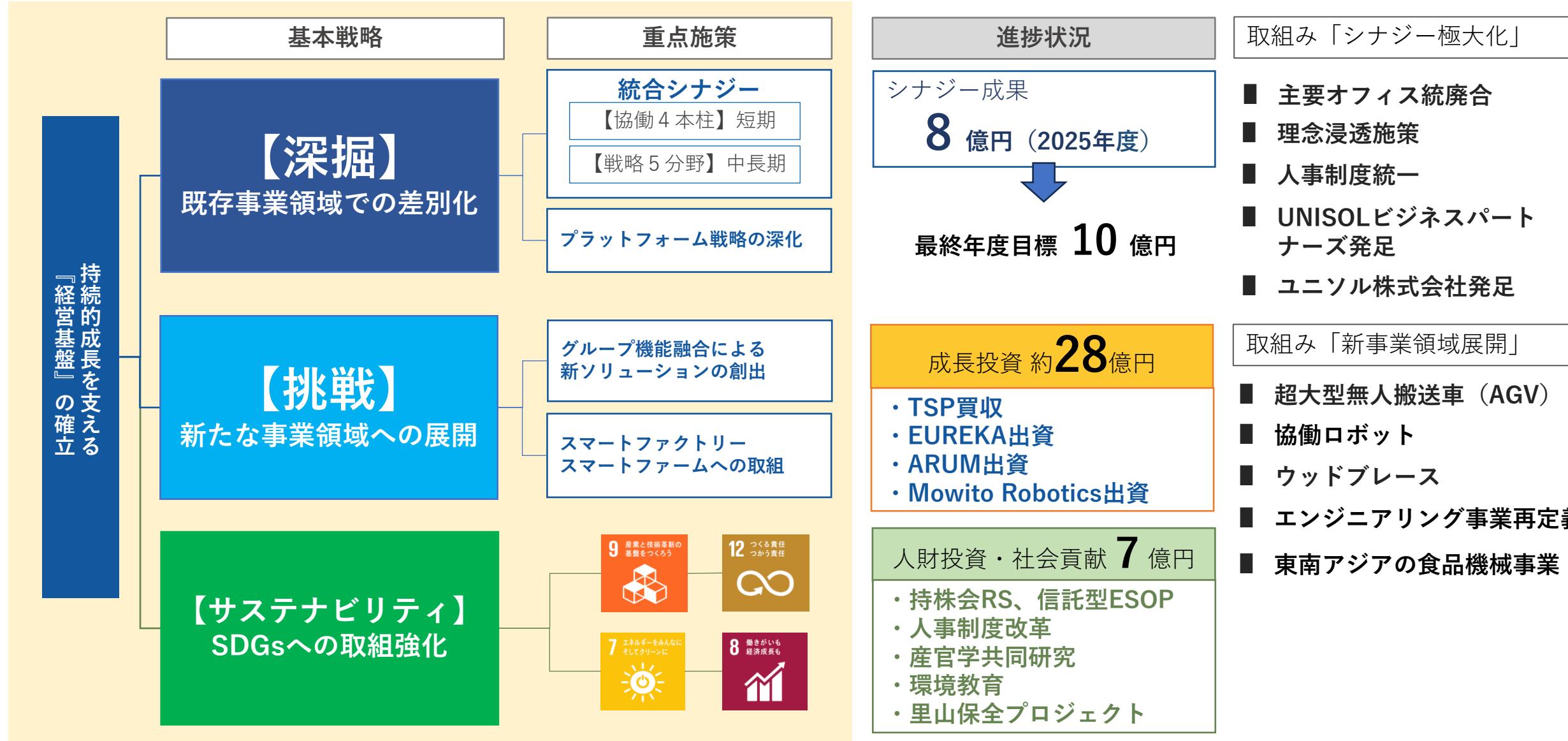
▲53%

営業利益見直し

売上計画 ↓ 販管費計画 ↑ により
公表計画 58億円 ➔ 34億円（▲42%）



中期経営計画『UNISOL』重点施策 進捗状況



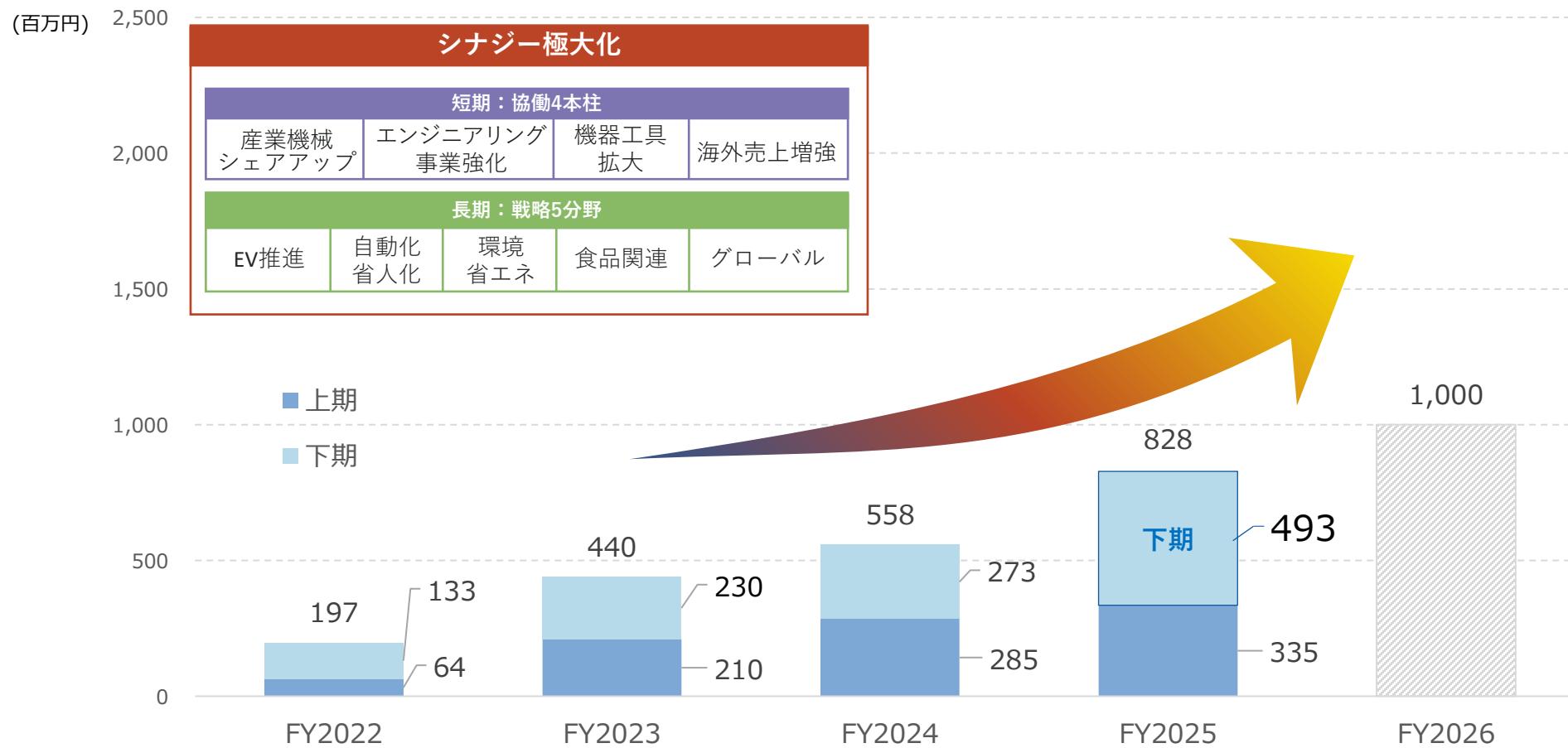


中期経営計画『UNISOL』統合シナジー



2025年12月期通期 実績：828百万円

- ・産業機械シェアアップ：機器工具の商材拡販を継続：161百万円
- ・自動化、省人化：直販での自動化省力化を推進：82百万円
- ・持続的経費削減：126百万円





【深堀】ユニソル株式会社を発足



- 2026年1月に旧マルカとジーネットの機械・工具事業を統合し新会社「ユニソル株式会社」を発足

※ 旧マルカの建設機械部門は分社化し、建設機械セグメントを担う新会社「株式会社マルカ」として事業開始



ユニソル株式会社



- 事業ねじれを解消し直需と卸が融合したユニークなビジネスモデルでシナジー極大化を図る
- 統合効果の発現を加速化すべく発足前の2025年12月に各事業部方針を配信。2026年1月に初回となる全国会議を開催

◆ 各事業部方針説明動画を配信



◆ 第1回ユニソル全国会議を開催





【挑戦】Mowito Roboticsに出資 (2026年1月19日プレスリリース)



- 世界的に関心が高まるフィジカルAI分野へEUREKAに続くスタートアップ投資
- 急成長中のインド市場でのビジネス機会創出とグローバルエンジニアリング事業の強化を目指す



mowito



UNISOL

【Mowito社の概況】

創業者	・ Puru Rastogi ・ Adityanag Nagesh
設立	2021年
本社/拠点	米国/印ベンガルール
保有技術	・ 高速画像処理によるトラッキング技術により、ロボットアームが動くワークをリアルタイムで追従 ・ 生成AIを応用し、画像データと力覚データに基づく模倣学習によるロボット動作生成を実現 ・ AI外観検査ソフトウェアも内製
用途	・ コンベア上でのロボットを用いた外観検査 ・ ワイヤー等の不定形ワークや、動くワークの組立 ・ アーム搭載AMRによるマシンテンディング(加工機へのワーク脱着)

◆ Puru Rastogi氏



カーネギーメロン大学出身のロボット研究者

◆ Adityanag Nagesh氏



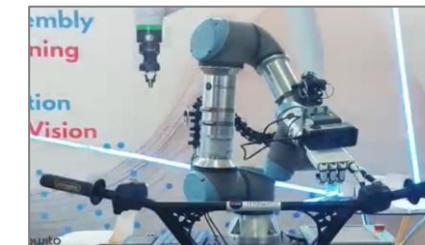
プログラマーとしてのバックグラウンドを持つ連続起業家

◆ トラッキング



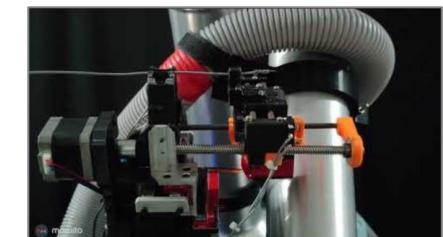
コンベア上のワークをリアルタイムで追従しながらAI外観検査

◆ スイッチ触感試験



触覚センサーと組み合わせ、スイッチの押し心地を検査

◆ ワイヤー挿入



線状ワークを認識、把持し、高精度で挿入



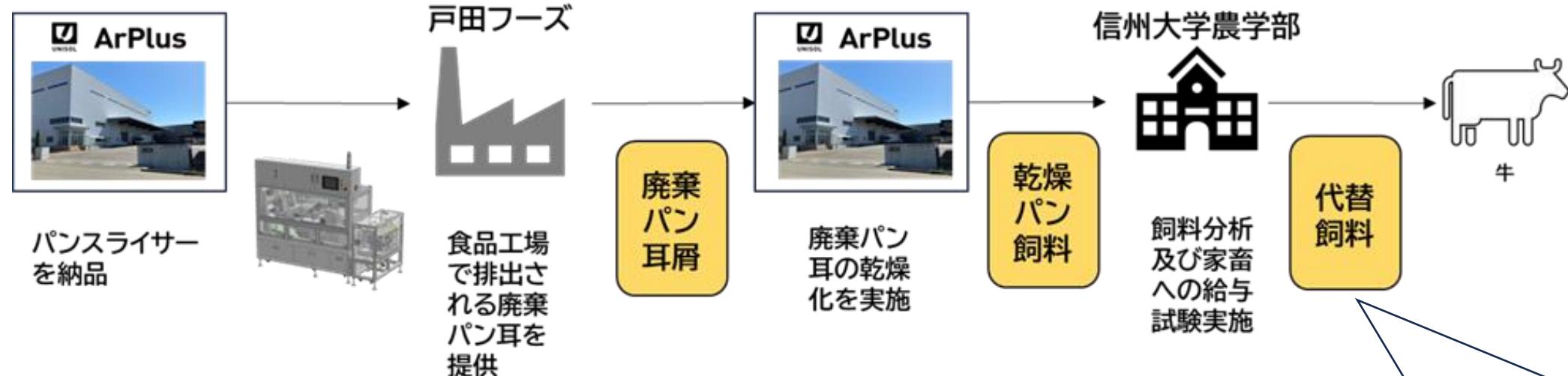
【サステナビリティ】パン耳再利用スキーム (2026年1月19日プレスリリース)

UNISOL

- 「食品ロス削減」は食が抱える社会問題の一つ。特に製パン業界の「パン耳の処理」は解決すべき重要課題の一つ
- ➡ グループ会社のアルプラス株式会社が、食パンスライサーメーカーとして率先して取り組み、将来的には事業化を目指す

肉牛飼料としての活用

～産学連携（戸田フーズ、信州大学）で共同研究中



トウモロコシの代替穀物として、日本の
飼料自給率(26%程度)改善にも寄与



新中期経営計画の策定および 公表時期の前倒しについて



● 各種定量目標は未達。当初想定していた提携効果の発現加速が必要

外部要因

◆ 国内製造業の設備投資需要冷え込み

- ・ 機械・工具セグメントの主要市場（自動車・半導体等）の設備投資計画が、米国関税影響等で先行き不透明感による様子見状態が継続

◆ 国内建設需要の低迷

- ・ 建設資材セグメントの建築資材・配管資材において、コスト増や人手不足等による需要低迷が直撃

◆ 海外市況の停滞（特に中国・東南アジア）

- ・ 旧マルカの強みである海外展開において、中国の景気減速、東南アジアの自動車市場の低迷に伴う工作機械需要の停滞が長期化

内部要因

◆ 事業ポートフォリオが市場環境の変化に大きく左右されやすい

◆ 当初想定していたシナジー創出に遅れ

◆ PLの伸長施策に偏重し、BSマネジメントが不十分

◆ 統合直後に策定した計画で、蓋然性・予実管理体制、計画達成を支える具体的施策への落としこみが不十分



中期経営計画策定プロセスを抜本的に見直し、実効性のある各施策/定量目標を策定



新中期経営計画 公表時期の前倒しについて

- 企業価値向上の加速に向け、新中期経営計画の公表を「2026年6月」へ前倒し
- 市場環境の変化に即応し、成長戦略と資本効率の改善を早期に提示

前倒し公表の目的

◆ 経営スピードの向上

市場環境の変化に即応し、次なる成長投資の実行を加速させるため

◆ 資本効率と時価総額の向上

資本コストを意識した経営を徹底するとともに、市場区分や指数構成に関する時価総額要件を充足するための具体的な施策を早期に示すため

◆ 業績進捗・変化を踏まえた資本政策の実行

資本コスト経営の深化に向けて最適な配当方針や資本構成の見直し、投資家との対話を強化するため





● 新会社ユニソル株式会社を軸に「実効性のある変革」と「資本効率性」を同時に満たすモデルを推進

ユニークソリューションによる収益力改善

- ・「モノ売り」から「コト・機能売り」へのビジネスモデル変革による収益力強化
- ・グローバル市場での「ニッチトップ戦略」

事業ポートフォリオの最適化

- ・事業ポートフォリオの「選択と集中」
- ・経営リソースを高収益事業へシフト

B/Sマネジメント

- ・株主還元・成長投資の「キャッシュアロケーション」明確化
- ・最適資本構成の実現
- ・更なる政策保有株式の縮減

目標達成に向けた枠組み構築と進捗可視化

- ・計画達成を支える具体的施策への落とし込み
- ・進捗度を測るモニタリング体制の強化
- ・各施策の遂行状況やKPIの進捗状況を可視化



I R 活動

I R活動

■ マスメディア廣告

・ ラジオNIKKEI 時報CM

2026年1月より、「マーケットプレス」直前の平日午前9時の時報CM（20秒）にて新社名CM放送中
<https://www.unisol-gr.com/group/advertising/>

・ ウェブCM

新社名周知を目的として、私たちの合言葉である「『その手があったか』を、次々と。」を表現

配信期間：2026年1月～6月
配信媒体：Tver、YouTube

<https://www.unisol-gr.com/group/advertising/>



■ 動画コンテンツ

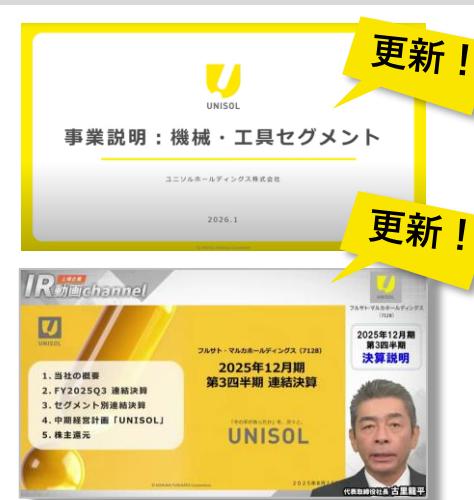
・ 当社コーポレートサイト

決算説明会動画（半期・通期）
<https://www.unisol-gr.com/ir/library/video/>

事業紹介動画（毎月更新）
<https://www.unisol-gr.com/group/video02/>

・ YouTube

公認会計士ひねけんの株式投資チャンネル
上場企業IR動画チャンネル（四半期）
<https://www.unisol-gr.com/ir/library/video/>



■ SNS

・ I R 公式X

日経・東証IRフェアでフォロワー増加
株価情報や当社イベント情報を毎日発信
https://x.com/Unisol_HD_IR



■ インターネット廣告

・ Yahoo!ファイナンス「株主優待積極企業」

2024年5月に株主優待制度を変更
投資魅力をさらに高め、長期保有に対する優遇制度を導入
<https://finance.yahoo.co.jp/quote/7128.T/incentive>

■ スポンサードレポート（四半期）

・ Shared Research

<https://sharedresearch.jp/ja/companies/7128#top>

更新！

■ お知らせ

New !

日興アイ・アール「2025年度 全上場企業
ホームページ充実度ランキング」にて
総合部門「優秀サイト」に初選出





UNISOL

本資料は、当社をご理解いただくことを目的に作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。本資料における業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び、合理的であると判断する一定の前提に基づいた予測であり、実際の業績は、経営環境の変化や市場の動向等の要因により、これらとは異なる結果となる可能性がありますことをご承知おき下さい。

ご利用に当たっては、ご自身の判断と責任においてなされることを前提としており、当社はいかなる場合においても責任は負いません。